

高齢社会を考える

東北地方の高齢化を読む

～超高齢化を乗り切る未来への布石～

シンキング・バーズ

日本語研究班

2014年6月

目 次

はじめに	1
東北地方の高齢化 現状とその構造	1
「率」と「数」のマジック	1
小規模自治体の高齢化率	2
女性の高齢化と若年層の流出	3
女性人口比率と高齢化	5
仙台市に見る大都市型の高齢化	6
「元気なお年寄り」の数	7

高齢社会を考える

東北地方の高齢化を読む

～超高齢化を乗り切る未来への布石～

シンキング・バーズ 人口問題研究班

はじめに

東 日本大震災以降の東北地方の人口は、一部の都市圏への人口集中をもたらしながら、広域的な漸減傾向を示しています。津波で被災した太平洋沿岸地域では、特に顕著な人口減少が見られます。また、高齢化の進展は、東北地方全域に広がり、日々進行しているように見受けられます。

WHO(世界保健機構)の定義によると、高齢化を示す指標は次のようになっています。

- ・人口対比で65歳以上の割合が7%以上の社会 = 高齢化社会
- ・同14%以上の社会 = 高齢社会
- ・同21%以上の社会 = 超高齢社会

東北地方では、自治体のほとんど(約96%)がすでに21%を超えており、「超高齢社会」の状態にあります。中には、高齢化率が50%を超える自治体も見られる状態です。

高齢化の進展がさまざまな弊害をもたらすことは、すでに各方面で指摘されています。本稿の目的は、高齢化の弊害やマイナス側面をいたずらに煽ることではありません。

東北地方の高齢化の現状を、できる限り分かりやすく示しながら、その課題がどこにあり、どのように向き合うことが望ましいのを模索することにあります。

東北地方の高齢化 現状とその構造

●「率」と「数」のマジック

東 北各県が毎年公表している人口推計データを集計すると、東北地方の高齢化は、次頁の「【表-1】東北6県の高齢化率」のような結果になります。県によって公表月が異なるため、

単純比較はできませんが、宮城県を除く東北各県が25%以上の高齢化率となっています。

高齢化率が最も高い秋田県では、県平均で31.5%という高い値を示しています。前年公表値に対して5,000人余り老年人口(65歳以上の人口)が増加しています。

秋田県に次ぐ山形県(29.1%)では、やはり年間5,000人余り、岩手県(28.7%)と青森県(27.9%)では、それぞれ8,000人余り老年人口が増加しています。

高齢社会を考える 東北地方の高齢化を読む

【表-1】東北6県の高齢化率(65歳以上の人口比率)

単位:人

項目	青森県	岩手県	秋田県	宮城県	山形県	福島県	東北計
人口	1,336,206	1,294,453	1,050,244	2,322,094	1,141,260	1,943,414	9,087,671
老年人口	371,184	370,575	330,699	557,327	330,702	526,058	2,486,545
高齢化率	27.90%	28.70%	31.50%	24.00%	29.10%	27.24%	27.40%
老年人口増減	+8,595	+8,124	+5,366	+19,693	+5,692	+5,272	+52,779
高齢化率増減	+0.9	+0.8	+0.9	+0.7	+0.8	+0.8	+0.82

【出典】東北各県の公表値による。各県の数値は、青森、岩手、秋田、山形の4県は2013年10月1日現在、福島県が2014年3月1日現在、宮城県が2014年3月31日現在。
*老年人口増減と高齢化率増減の値は、各県の前年同期公表値に対する増減値。
青森県 <http://www.pref.aomori.lg.jp/>、岩手県 <http://www.pref.iwate.jp/>
宮城県 <http://www.pref.miyagi.jp/>、秋田県 <http://www.pref.akita.lg.jp/>
山形県 <http://www.pref.yamagata.jp/>、福島県 <http://www.cms.pref.fukushima.jp/>

老年人口を数で比較すると、総人口の多い宮城県と福島県が、50万人台になっています。老年人口増加数では、宮城県が年間2万人に迫る増加が見られ、他県を大きく引き離しています。

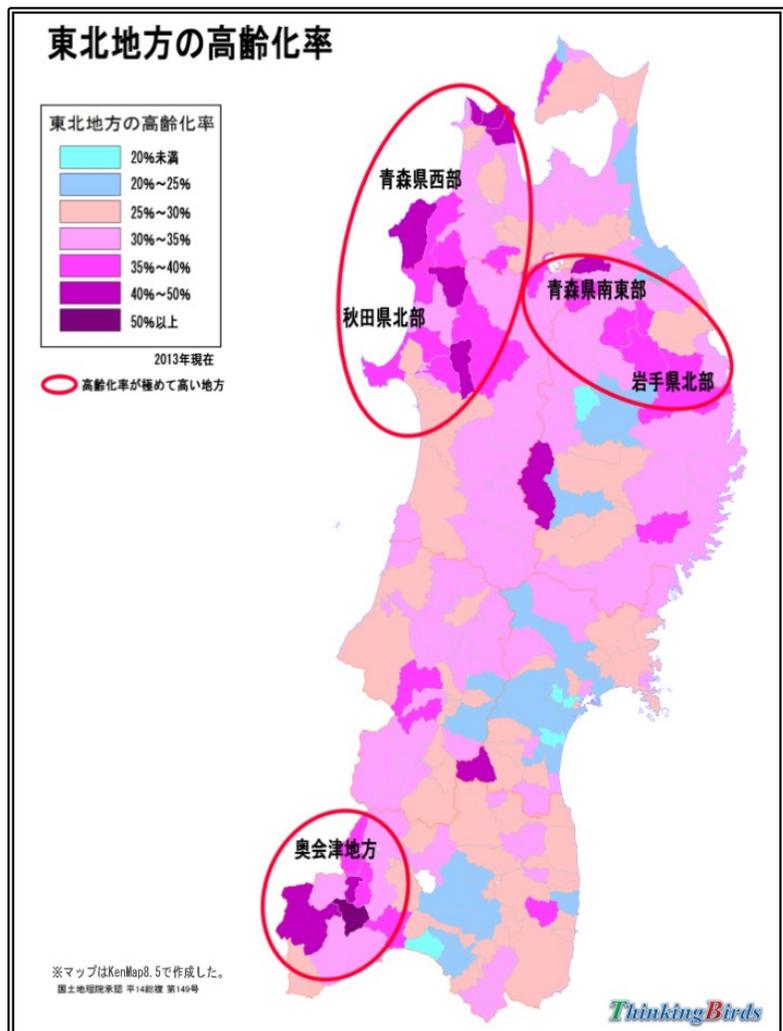
高齢化の問題は、とかく率で捉えられがちです。しかし、一人ひとりの人に関わる問題ですから、数の視点が必要です。東北地方の老年人口に占める宮城県の割合は22.4%、福島県の21.1%を加えると、両県で東北全体の約43%になります。その数は約108万人で、秋田県の総人口を上回ります。

●小規模自治体の高齢化率

東北地方には、高齢化率が40%を超える「超々高齢自治体」というべき自治体はいくつかあります。人口規模の小さい町村がほとんどです。かねてから「過疎」に悩んで来た地域と言えます。

次頁の「【表-2】高齢化率の高い自治体」は、高齢化率が35%を超

える自治体を示しています。その中で、40%を超える自治体は13あり、福島県・奥会津地方に5、青森県・津軽地方などに4、秋田県北部に2、そのほか岩手、宮城の山間部の



高齢社会を考える 東北地方の高齢化を読む

に各1となっています。いずれも人口1万人に満たない小規模自治体で、人口減少も加速しています。直近のデータでは、8自治体で人口減少が老年人口の減少に及んでいます。また、高齢化率が下がった自治体があり、高齢化の最終段階が、高齢化率のダウンに至ることを示しています。

高齢化率35%以上の自治体には、人口1万人から3万人規模の市町が含まれます。青森、岩手、秋田の北東北3県にある自治体で、中でも、秋田県北部から青森県西部にかけての自治体が多くを占めています。

その中で、人口規模が3万人を超える北秋田市(秋田県)と男鹿市(同)では、老年人口が

1万人を超えています。計算上は、人口3万人以上の自治体で高齢化率が35%を超えると、老年人口も1万人を超えます。両市の75歳以上の後期高齢者数は、北秋田市で約7,900人、男鹿市で約6,400人です。これは、後期高齢者数だけで、高齢化率が極めて高い小規模自治体の総人口を、はるかに超える値になります。

●女性の高齢化と若年層の流出

高

齢化率が50%を超える「超々高齢」自治体は、東北地方で3自治体です。いずれも福島県会津地方にあり、超高齢化地方の一つと言えま

【表-2】 高齢化率の高い自治体

単位：人

自治体名	県名	人口	老年人口	高齢化率	自治体名	県名	人口	老年人口	高齢化率
金山町	福島県	2,204	1,268	57.50%	小坂町	秋田県	5,731	2,226	37.90%
昭和村	福島県	1,362	742	54.50%	下郷町	福島県	6,073	2,301	37.90%
三島町	福島県	1,737	565	50.00%	北秋田市	秋田県	34,385	13,323	37.60%
今別町	青森県	2,892	1,390	48.10%	佐井村	青森県	2,299	859	37.40%
上小阿仁村	秋田県	2,500	1,167	46.00%	田子町	青森県	5,798	2,164	37.30%
七ヶ宿町	宮城県	1,588	709	44.60%	八峰町	秋田県	7,729	2,981	37.10%
西和賀町	岩手県	6,129	2,744	44.10%	川内村	福島県	2,570	953	37.10%
外ヶ浜町	青森県	6,373	2,762	43.30%	西川町	山形県	5,850	2,263	37.00%
新郷村	青森県	2,645	1,145	43.30%	鯉ヶ沢町	青森県	10,602	3,907	36.90%
只見町	福島県	4,621	1,989	43.10%	南会津町	福島県	16,753	6,181	36.90%
西会津町	福島県	6,790	2,888	42.50%	大鰐町	青森県	10,214	3,706	36.30%
深浦町	青森県	9,038	3,747	41.50%	中泊町	青森県	11,800	4,270	36.20%
藤里町	秋田県	3,617	1,497	40.60%	三種町	秋田県	17,841	6,626	36.10%
					男鹿市	秋田県	30,420	11,373	36.10%
柳津町	福島県	3,675	1,466	39.90%	朝日町	山形県	7,404	2,744	36.00%
葛巻町	岩手県	6,814	2,742	39.10%	西目屋村	青森県	1,502	539	35.90%
五城目町	秋田県	9,912	3,979	38.90%	三戸町	青森県	10,652	3,777	35.50%
住田町	岩手県	5,986	2,352	38.60%	一戸町	岩手県	13,476	4,840	35.40%
岩泉町	岩手県	10,094	3,955	38.10%	九戸村	岩手県	6,180	2,222	35.10%
	老年人口減少自治体					老年人口1万人以上の自治体			

【出典】「表1」に示した各県数値による。

高齢社会を考える 東北地方の高齢化を読む

す。最も高齢化率が高い金山町と昭和村の人口ピラミッドを下図に示します。老年人口の減少がすでに起こっていて、2014年3月現在の人口は、金山町が約2,200人、昭和村が約1,400人です。

両町村の人口構成は、高齢社会を特徴づける逆ピラミッド型で、特に85歳以上の女性が突出して多いのが特徴です。全女性人口の半数以上が戦前生まれ女性で占められます。金山町では「70歳～74歳」の1939年(昭和14年)から1943年(昭和18年)生まれの年齢層が多くなっています。昭和村では、その年齢層がやや少ないとはいえ、やはり高齢女性が際立って多い人口構成です。

男性については、太平洋戦争中に生まれた年齢層に落ち込みがあり、団塊世代のピークとなる1949年(昭和24年)生まれが含まれる「60歳～64歳」の層がやや厚くなる傾向を示しています。

一方、若年層は、「20歳～24歳」の年齢層が両町村共に極端に少なくなっています。この年齢層の人口流出を特徴づけるもので、性別に関わりなく流出が起きていることを示

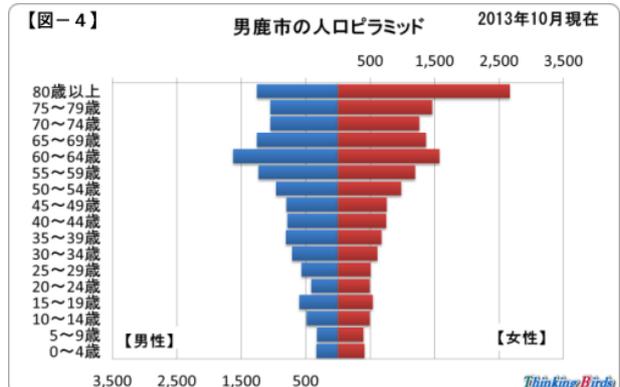
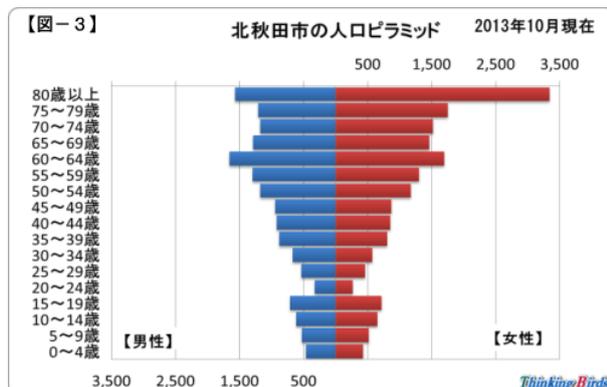
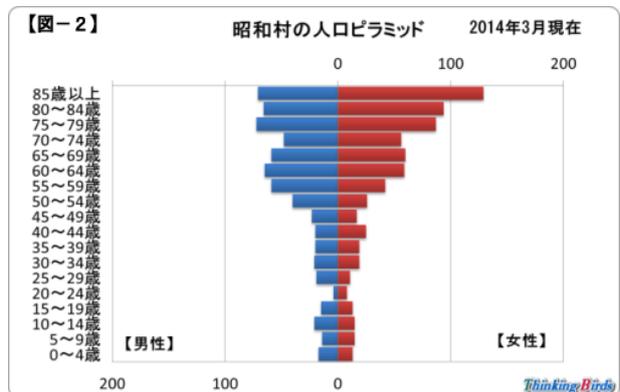
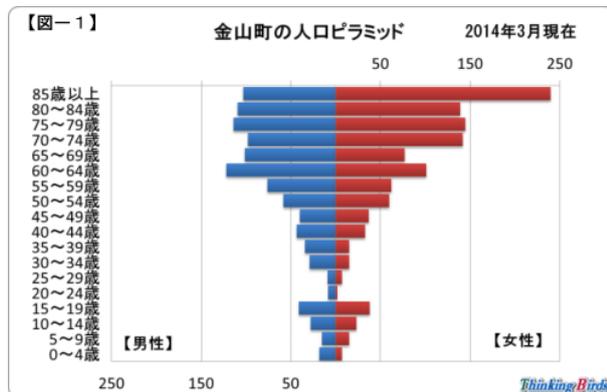
しています。

【図-3】と【図-4】は、人口規模が3万人台で高齢化率が35%を超える北秋田市と男鹿市(秋田県)の人口ピラミッドです。

北秋田市は、2005年(平成17年)に阿仁町、鷹巣町、合川町、森吉町の北秋田郡4町が合併して誕生した比較的新しい市です。男鹿市は、2005年(平成17年)に隣接する若美町と合併し、新・男鹿市となっています。

両市の2013年10月現在の人口構成は、金山町と昭和村の例でも見た通り、基本的には逆ピラミッド型です。80歳以上の女性層の割合が極めて高いことも共通しています。また、1949年(昭和24年)生まれを含む「60歳～64歳」の年齢層の多さは、金山町と昭和村より顕著に現れています。

一方、「20歳～24歳」の若年層の落ち込みは、北秋田市で顕著なのに対して、男鹿市ではやや緩やかです。これは、北秋田市では、合併以前の旧町に内在していた人口流出構造が、そのまま残っている可能性が高いことを示唆しています。それに対して男鹿市では、人口流出はあるものの、一定の流出防止機能



高齢社会を考える 東北地方の高齢化を読む

(産業)があると推測されます。

●女性人口比率と高齢化

東 北地方の男女別人口構成は、平均寿命の男女差を反映し、女性割合が約53%と男性人口を上回ります。2014年12月現在で、女性が男性より約35万人多いと推計されます。

一方では、人口減少が続く中で、女性減少

数が男性を上回る傾向も示しています。特に若年層を中心とした生産年齢人口（15歳～64歳）の女性流出割合が高いとされています。その結果、高齢化の進展とも相まって、東北各地に「おばあちゃん型社会」が形成されています。

東北地方は、福島県などの一部地域を除いて、ほぼ全域が女性人口割合の高い地域です。

中でも、青森県から岩手県北部、秋田県、山形県の日本海側の地域や会津地方は、女性人口が男性人口を大きく上回っています。これは、高齢化率が高い地域と、ほぼ重なる傾向にあります。

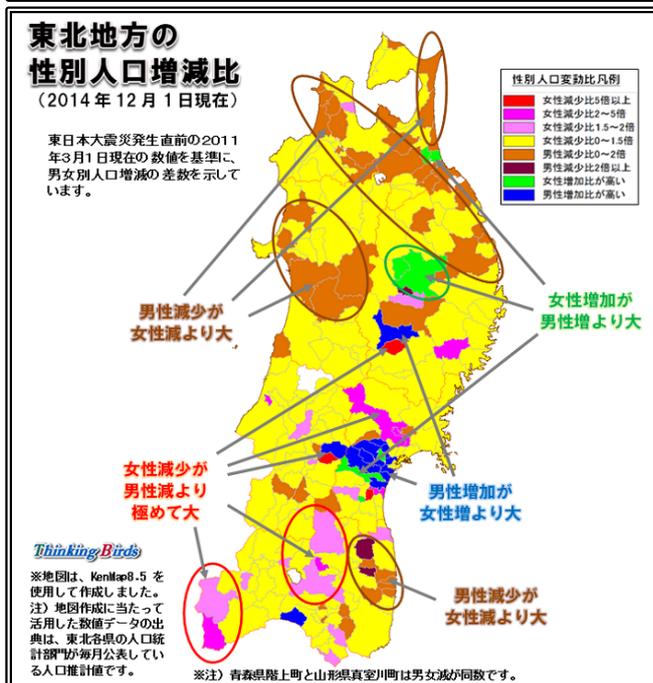
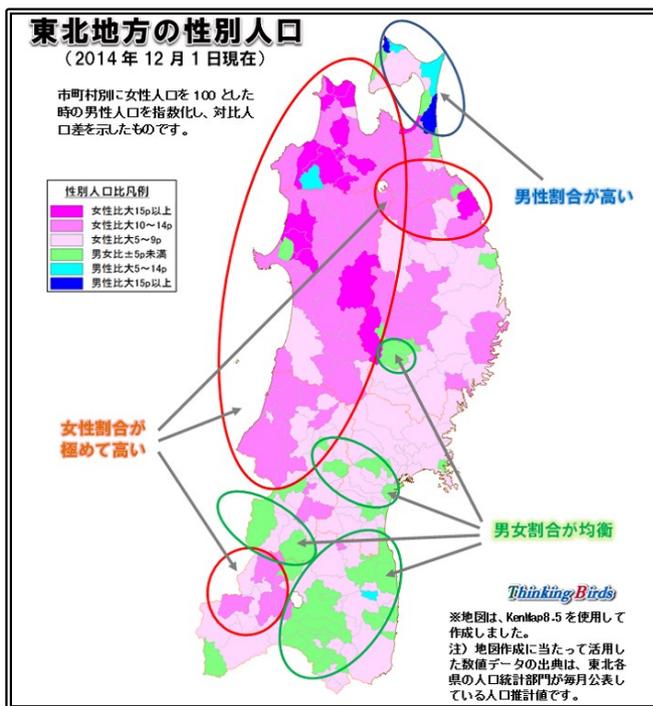
一方、男性割合が高い地域は、下北半島などのごく一部に限られます。男女比が均衡する地域は、福島県南部や仙台市近郊、岩手県中部などに点在しています。

男女別の人口移動を見ると、女性減少数が男性減少数より多い地域が増えています。東日本大震災が発生した2011年3月を基準にした男女別人口減少比を示したのが、左下グラフです。黄色、ピンク、赤が、女性減少数が男性減少数を上回る地域です。ほぼ全域に広がっていて、2倍を超える自治体が10を数えます。中には5倍を超える自治体もあります。

一方、男性減少数が多い地域は、茶色で示した地域で、秋田市とその周辺、青森県中北部、福島第一原発周辺などに点在しています。

人口増加地域では、青色表示の仙台市周辺（太白区、富谷町を除く）が、男性増加数が女性増加数より多くなっています。緑色表示の岩手県盛岡市や滝沢市、仙台市太白区、青森県六戸町などは、女性増加数が男性増加数より多い地域です。

この結果は、東北地方では、定住女性



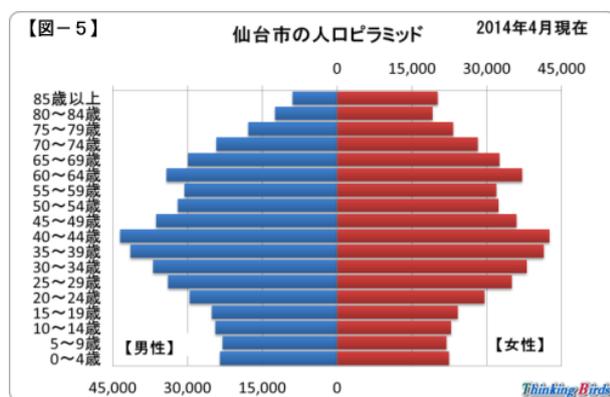
高齢社会を考える 東北地方の高齢化を読む

の高齢化が進み、若年女性が流出して減少する傾向を端的に示しています。

●仙台市に見る大都市型の高齢化

仙 台市は、東北地方で唯一の100万人都市です。東日本大震災以降、他地域から人口流入が続き、周辺地域も含めて人口増加が続いています。

【図-3】は、2014年4月現在の仙台市の人口ピラミッドです。20代から40代の生産年齢人口の割合が極めて高く、「つぼ型」の人口構成となっています。活発な企業活動や就学機会の提供などによって、人口流入が



進んでいます。加えて復興需要が人口流入を後押ししていると考えられます。65歳以上の人口割合(高齢化率)は、20.7%(男性18.4%、女性22.9%)で、他の東北地方の自治体に比べると、極めて低い値を示しています。

しかし、老年人口数は、東北地方で最も高くなっています。2014年4月現在の推計で、約22万人のお年寄りが仙台市に暮らしています。これは、同市に次いで老年人口が多いいわき市(福島県)の約8万9,000人を大きく上回る数値です。75歳以上の後期高齢者数は約10万人で、人口に占める割合は低いとはいえ、数値としては極めて高い値です。

大都市圏の高齢化の問題は、高齢化率のみで推し量ることはできません。後期高齢者の年齢になると、介護や医療に依存する割合が高くなりますが、分母となる人口規模が大きければ大きいほど、介護を必要とするお年寄りの数も増えることとなります。それは、小規模自治体をはるかに上回る数です。これが、都市型高齢社会です。その結果、介護施設の整備や医療の充実、あるいは、その人材の確

【表-3】 高齢者数の多い自治体 単位:人

自治体名	県名	人口	老年人口	高齢化率
1 仙台市	宮城県	1,046,192	216,548	20.70%
2 いわき市	福島県	327,359	89,108	27.33%
3 秋田市	秋田県	321,783	83,354	26.04%
4 青森市	青森県	295,683	77,025	25.84%
5 郡山市	福島県	328,279	74,389	22.96%
6 福島市	福島県	283,192	73,723	26.37%
7 盛岡市	岩手県	300,102	69,533	23.40%
8 山形市	山形県	254,200	64,615	25.60%
9 八戸市	青森県	235,562	60,511	25.34%

【出典】仙台市『町名別年齢(各歳)別住民基本台帳人口』(平成26年4月1日現在)と東北各県の公表値。仙台市以外の数値は、青森、岩手、秋田、山形の各県自治体が2013年10月1日現在、福島県の自治体が2014年3月1日現在。
仙台市 <http://www.city.sendai.jp/>

東北各都市の高齢者数



高齢社会を考える 東北地方の高齢化を読む

保、在宅介護のためのノウハウ、制度上の改革といった議論になります。民間では、そこにビジネス機会を求めることになります。

この大都市型高齢社会への対応手法は、規模と社会環境において、小規模自治体とは条件が異なります。その条件格差を平準化して論じることには無理がある以上、その両者は切り分ける必要があります。大都市型のケースは都市問題として、小規模自治体のケースは地域再生の問題として、捉えることが妥当と考えます。

●「元気なお年寄り」の数

高

齢社会ということばに、「福祉」「介護」「医療」ということばを思い浮かべる人は多いと思います。しかし、身の回りを見渡してみると、元気なお年寄りの多いのが実態です。

【表－４】は、厚生労働省が公表している全国の要介護と要支援認定者数のうち、2013年10月末現在の東北6県分を抜き出して集計したものです。人口と前期高齢者数、後期高齢者数は同月1日現在の各県公表値を採用し(宮城県を除く)、認定者数割合を算出しています。

その集計結果によると、東北各県の65歳以上のお年寄りに占める認定者割合は、秋田県が20%を超えているほかは、ほとんどの県が19%台で、宮城県が18%台となっています。未認定の高齢者がすべて「元気なお年寄り」とは限りませんが、未審査などの事情を考慮したとしても、少なくとも相当数の「元気なお年寄り」がいると推測されます。

集計結果によると、前期高齢者(65歳～74歳)の場合、各県の認定割合は5%未満です。大半の高齢者は、未認定で日常生活を送って

【表－４】東北地方における要介護(要支援)認定者数

単位：人

項目	青森県	岩手県	秋田県	宮城県	山形県	福島県	東北計
人口	1,336,206	1,294,453	1,050,244	2,322,094	1,141,260	1,947,580	9,091,725
老年人口	371,184	370,575	330,716	557,347	330,702	520,786	2,481,310
前期高齢者数(65歳～74歳)	176,044	167,120	144,248	274,245	172,484	237,028	1,171,169
後期高齢者数(75歳以上)	195,140	203,455	186,468	283,102	158,218	283,758	1,310,141
要介護(要支援)認定者数	74,069	72,607	70,489	102,779	63,950	100,883	484,977
老年人口に占める割合	19.95%	19.65%	21.31%	18.44%	19.34%	19.37%	19.55%
前期高齢者認定者数*	8,645	7,643	6,619	11,490	5,669	10,122	50,188
同年代人口に占める割合	4.91%	4.52%	4.59%	4.19%	3.29%	4.27%	4.29%
前期未認定者数(A)	167,399	159,477	137,629	362,755	166,815	226,906	1,120,981
後期高齢者認定者数*	63,279	63,204	62,152	88,126	56,797	87,894	721,544
同年代人口に占める割合	32.43%	31.07%	33.33%	31.16%	35.94%	30.97%	32.18%
後期未認定者数(B)	131,861	140,251	194,884	124,316	101,421	195,864	888,597
第2号被保険者	2,145	1,960	1,718	8,071	1,484	2,867	13,245
(A)+(B)	299,260	299,728	261,945	457,639	268,236	422,770	2,009,578

出典：厚生労働省『介護保険事業状況報告(暫定)』(2013年10月1日現在)、東北各県の人口推計年報(同月同日現在)、宮城県『圏域別高齢者人口調』(2014年3月31日現在)。

*「前期高齢者認定者数」「後期高齢者認定者数」は第1号被保険者(無職、自営業、農業等の国民健康保険加入者)数。
*「第2号被保険者」は国保以外の保険加入者数。

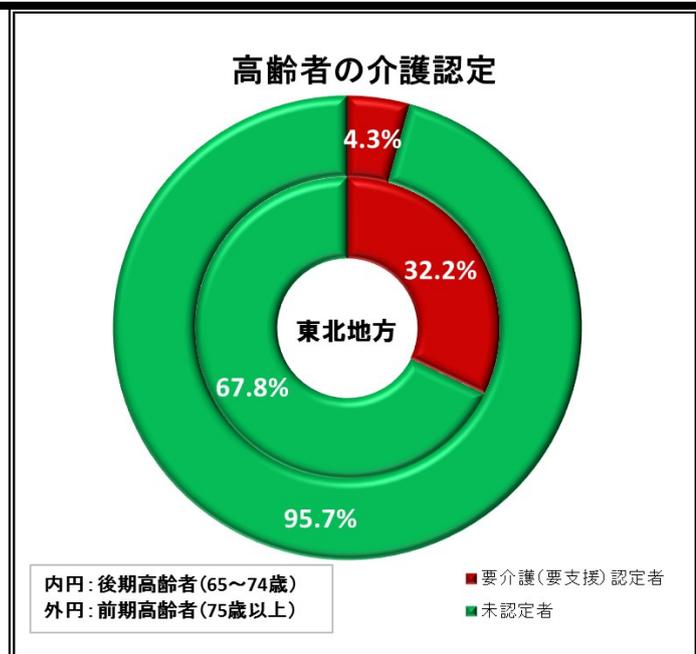
高齢社会を考える 東北地方の高齢化を読む

いることとなります。

後期高齢者(75歳以上)の場合、認定割合が高まり、東北地方全体で32.2%となります。それでも、約7割のお年寄りが未認定となります。

未認定者の総数は、東北地方全体で200万人を超えます。仮にその半数を「元気」と想定したとしても、100万人のお年寄りが、身体的な障害に苦しむことなく、日常生活を営んでいると考えることができます。

私たちは、ここに「超高齢社会」を乗り切る大きな鍵があると考えています。次章は、その考察です。



シンキング・バーズ新書

**高齢社会を考える
東北地方の超高齢社会化**

2014年6月25日（初版）発行

著者：シンキング・バーズ
人口問題研究班

発行者：遊佐 芳泰

発行所：**シンキング・バーズ**
〒021-0821

岩手県一関市三関字神田105番5号

電話／FAX 0191-23-0724

※この論考の著作権は、図表を含めてシンキング・バーズに帰属しています。複写、無断転載、無断転用は固くお断りします。